

令和元年度高知県立農業高等学校評価表

【 A 100%以上 B 100%未満 80%以上 C 80%未満 60%以上 D 60%未満 】 外部評価 R2年2月7日実施

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)	評価	外部評価	評価	今後の課題・改善策
1 魅力ある学校づくり (1) (学生の確保)	○平成29年度の在籍者は定員の半数以下 ○受験者は農業高校及びコース校が全体の約半数と割合が高い ○農業系高校との連携強化	○定員充足率 80%	○オープンキャンパス開催（3回/年、実数52名参加【前年比93%】） ○ホームページのページビュー数【前年比98%】 ○ホームページを50回更新【前年比82%】 ○パンフレット配布4000部【昨年と同数】（高校、JA、生産部会、行政） ○県内高校47校を学校訪問【昨年46校】 ○高校がタワース（16校）【昨年に比べ9校増】 ○アグリウオッチング実施生徒25名参加【昨年29名】 ○ラジオ、テレビ、新聞（14回） ○「こうぐり」掲載（1月号） ○FaceBook、 新 Instagramの発信(Fa58回、In23回)【昨年比147%】 ○農業系高校と意見交換会（12月、25名・3年連続） ○農業クラブ審査（7月・毎年） ○GAPコンテスト参加事務局長賞（40チーム中） ○ホームページコンテスト奨励賞	○受験者35名 ＜昨年比1名増＞ ○合格者31名 ＜昨年比2名増＞ ○入校者28名 ＜昨年比同数＞ ＜今年＞ 受験者数合格者 推薦19名17名 前期13名11名 後期3名3名 計35名31名 入校者28名 ＜昨年＞ 受験者数合格者 推薦24名22名 前期5名4名 後期5名3名 計34名29名 入校者28名 ＜一昨年＞ 入校者36名	D	・受験者数は増えていますが、入校者は減少なので、目標には届かなかったと思います。（2.2.7現在） ・高知の農大ならではの特色を近隣県や大都市圏の高校にもPRが必要だと思います。 ・様々な方策を地道に続けることが大事だと思います。 ・次世代ハウスや環境制御を学びたい学生は県外にも大勢いると思います。 ・オープンキャンパスはパワーポイント等、写真で楽しい魅力が伝わる説明をする。 ・学校訪問時には、ぜひ学生同伴で。 ・SNSの更新頻度を上げる。	B	○オープンキャンパスの実施 ○社会人向けのPR方法の充実（JA等への協力依頼） ○県の就農プログラムに位置づけ ○県外の相談会でのPRを実施

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価	評価	今後の取り組み
					評価			
(2) カリキュラムの充実)	○学生のキャリアパスが多様化	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実 ○G-GAP 認証の継続取得 ○全品目で GAP の考え方を実践	○G・GAP 認証に向けた実践教育 ・「GAP」講義の実施 ・安全・安心な農業・農産物生産に係る生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価、審査資料の作成 ○ICTを活用したスマート農業の実践 ○6次産業化の基礎学習 ○進路希望別カリキュラムの実施 ○販売実習の実施 ・大阪量販店【1回】2年 ・日曜市【8回】 ・農大ショップ【原則毎月】 ・農業教育フェア【12月】 ・野菜くだもの花フェスタ【2月】 ・農大祭【11月】 ○農作業事故防止への対応 ・注意喚起の掲示 ・学生の技量別操作の実施 ・十分な機械実習時間数の確保	○G-GAPの認証取得 ・審査(トマト)(9/18) ・認証取得(10/8) ○マスパランスの確認 トマトを含む10品目におけるマスパランスの調査<現在栽培中> ○タブレット活用講義「SNSと農業」(6日18時間)、「スマート農業」講義 ドローンの活用事例及び操作等(6日、18時間) ○畜産学生への酪農実習の実施(44日、132時間実施) ○畜産学生への養鶏実習の実施(16日、93時間実施) ○6次産業化科目(講義・実習)のリニューアル 1年講義(5日15時間) 1年加工演習(5日15時間) 2年加工演習(5日15時間) ○就農、雇用就農、就職コース(11月～1月、10日、30時間) ○聴講科目の拡充(土壌肥科学)	B	・学生たちが生き生きと取り組んでいる様子が見受けられます。今後共、更なる充実と学生のモチベーションを高める取り組みに期待しています。 ・GAP→トマト班だけでなく全学生が詳しく取り組めるように。 ・ITC→視察をしてみたかった。 ・タブレット活用講義が活かせていない。回数を3回(SNSの仕組み、ほ場での撮影、投稿)にして、農業者の取り組み事例を聴く内容がいい。 ・販売実習の増加 ・6次産業化科目(2年加工演習)は、チェコ(おもてなしコンテスト)の試作に要した。 ・農業機械の操作実習の時間を増やすことで、農作業事故防止への対応にもつながる。	C	○専門性の講義時間の増加 ○体育の授業復活(15時間) ○2年生に有機農業の授業を新設 ○ガイドラインGAP等の検討 ○シラバスの内容充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)	評価	外部評価	評価	今後の取り組み														
(3) 基礎学力の向上	○基礎学力に 学生間差がある	○基礎学力の 向上(学校全 体のレベル 向上)	○基礎学力の向上（農業計算）【毎年】 ・農業計算補習(10名、5回) ・実習で農業計算指導 ・国語の授業を実施【新規】 ○入試合格者への課題提出 (数学、国語、基礎化学)	○農業計算の補習の感想 ・とてもありがたかった ・ためになった ・希釈倍数計算ができるようになった ○計算力の向上（2年） 3.3点アップの71.3点(平均) ○ヤンマー懸賞の応募数 (24名／28名)【昨年10名】	B	・作文、論文の数が増えているので、他の募集にも応募してみてもどうか。 ・英会話の向上も必要。	B	○学生の意向を受けて、補習品目を増加 (数学、国語、基礎化学)														
(4) 学生の生活指導の 充実	○規則違反、マナー違反が 散見される ○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上	○自主的活動 の実践 ○社会人として行動・実践	○人権・メンタル面のカウンセリング実施<臨床心理士、公認心理士> (1年27名+2年2名) ○提出期限等連絡事項を毎週の連絡会で周知、重要事項を掲示板に掲示 ○ルール遵守のための学生指導強化【毎年】 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施【毎年】 ○GAPの考え方を寮生活に導入 ○1分間スピーチの実施	○人権・メンタル面のカウンセリング結果(感想) ・いろんなことを話すことができて良かった。 ・聞いてもらえて良かった。 ・来年も実施して欲しい。 ○評価 <table><tr><td>カウンセリング</td><td>80点</td></tr><tr><td>学習姿勢</td><td>60点</td></tr><tr><td>生活態度</td><td>70点</td></tr><tr><td>挨拶運動</td><td>90点</td></tr><tr><td>日常挨拶</td><td>80点</td></tr><tr><td>寮の整頓</td><td>60点</td></tr><tr><td>コミュニケーション力</td><td>70点</td></tr></table> ※校長が100点満点で採点 ※生活態度 停学 1名、戒告 1名 注意 54名(延べ)	カウンセリング	80点	学習姿勢	60点	生活態度	70点	挨拶運動	90点	日常挨拶	80点	寮の整頓	60点	コミュニケーション力	70点	B	・カウンセリングも必要と思いますが、教職員の皆様方との人間関係、コミュニケーション、信頼関係の構築も大切だと思います。 ・連絡事項の周知を強化するために、LINE等の活用を。 ・注意指導となる事例の明確化を。 ・GAPの寮への波及ができていない。	C	○年度当初に生活指導の徹底 ○目標を持たせることで生活改善
カウンセリング	80点																					
学習姿勢	60点																					
生活態度	70点																					
挨拶運動	90点																					
日常挨拶	80点																					
寮の整頓	60点																					
コミュニケーション力	70点																					

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流目的の明確化	○オランダとの交流実施	○オランダ・レンティス校学生の受け入れ (4/18～5/2：15日間) ○オランダ訪問団への参加 (7/10～20：11日間、うち、ホームステイ2泊) ○TOEIC・Bridge サンプルの導入	○学生5名、引率教官2名 ・オランダ環境制御技術の引率教官による講義 ・オランダ学生とマーケティング調査及び発表会 ・自治会の休日観光案内、交流スポーツ大会の実施 ○2年5名、引率教官1名 ・初めて4月来校学生宅でホームステイを実施 ○TOEIC・Bridge サンプル実施	A	・近年の卒業生にオランダ交流がどのように役に立っているか聞き取りをして、今後の課題を見つけてはどうか。 ・受け入れ時のオランダ農業の事前学習。 ・授業の見直し（英語）。 ・自治会の休日案内、交流スポーツ大会の実施は良かった。オランダ学生の来校時に、同室でするのも良い交流になると思う。	A	○4月来校予定が10月に延期 ・ヘンク先生の環境制御技術の授業の充実 ○オランダ研修は延期（蘭訪日は未定）
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題の選定 ○四国意見発表会に参加（12月、2名） ○中国四国プロジェクト発表会に参加（1月、2名） ○実習後の実習日誌の指導（年間） ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習（年間）	○プロジェクト審査園芸学科30名、畜産学科2名、全員合格 ○四国で優勝、全国大会に選出(2月)【花き科1年】 ○中四国の選考会で代表権無し。 ○指導教官の指導回数（野菜2回、花き3回、果樹12回、畜産24回） ○プロジェクトに活用（2年2名、1年1名） ・野菜科学生が利用	B	・卒業後にも役に立ち、自らが社会人生活でも目標設定ができるようなプロジェクト活動に期待しています。	B	○プロジェクト等、学生が自主的に行えるように指導

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
(3) 法人の求める能力の育成	○農業法人からは元気な学生が求められている ○コミュニケーション力が求められている ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○雇用就農に対応した講義の実施 ・雇用管理の講義(社労士) ○法人とのマッチング ・法人との意見交換会(8月、28人、11社) ・法人現地視察(11月、27人、3社) ・農業技術検定の取得支援 ○インターンシップの強化(1年、5月、9法人) ○先進農家等留学研修の実施(2年、10月、10社) ○休日アルバイト利用10名	○生産法人への雇用就農者5人(内、次世代型0名) ・コスモスアグリサポート ・南国市野菜農家 ・営農支援センター ・四万十野菜合同会社 ・芸西村花き農家	B	・農業業界に限らず、社会人としての一般常識は大変重要だと思うので、更なる強化に期待しています。	B	○雇用就農の学生支援(インターンシップ、マッチング)
(4) 各種資格・免許取得	○資格免許の合格率の向上 ○補習の充実	○合格者及び免許取得者の確保 目標数値 【合格者数】 ・乙種4類10名 ・農業技術検定3級28名 ・エクセル3級25名	○資格取得のための支援 ○資格取得の必要性の周知 【資格・免許等】 危険物乙種4類取扱者 毒物劇物取扱者 日本農業技術検定 フラワー装飾 エクセル3級 土壤医3級 フォークリフト 小型車両系建機(3t未満) 狩猟わな免許	○合格者 <u>乙種4類取扱者 3/33名</u> <u>毒物劇物取扱者 0/12名</u> <u>農業技術検定2級 6/41名</u> 農業技術検定3級 23/28名 フラワー装飾2級 5/7名 フラワー装飾3級 6/11名 エクセル3級 26/28名 <u>土壤医3級 3/30名</u> フォークリフト 28/28名 小型車両系建機 21/21名 狩猟わな免許 2/2名 人工授精師 今年未実施	C	・学生本人のやる気を引き出すためにも必要性の周知を徹底する事も重要と思います。 ・法律改正により、大特、牽引免許の取得も必須になります。 ・免許改正に伴い、大型特殊(農耕車限定)免許の取得推進。	C	○資格取得の重点対策 ・農業技術検定2級 ・乙種4類取扱資格 ・毒物劇物取扱資格 ・土壤医3級

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
3 進路支援 活動の強化 (1) 就職活動 の支援体 制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見される ○雇用就農できる生産法人の開拓	○進路内定率 100%	○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職コース）の支援 ○キャリア支援（ジョブカード記入、コンサル） ○6次産業化科目の新設 ○三者面談を通じた早期の目標の明確化（6月） ○求人情報の把握と紹介（毎月） ○海外農業研修の情報提供（5月） ○就職説明会の実施(3月) ○高知大学への四大編入の制度化に向けた取組	○進路内定率 100% 32/32名 ○求人情報 県内企業 31社 県内求人数 146名 県外企業 29社 県外求人数 245名 ○進路先 就農 6名 雇用就農 7名 就職 18名 その他 1名 ○高知大学編入卒の確保は現状厳しい	B	・学生個人の個性を把握した教職員からのアドバイスも進路を決める中で、大切な事だと思います。 ・視野を広げる機会でもある海外農業研修の説明会があっても良いのではないかと思います。	C	○早期の進路内定 ・3者面談（4月）
(2) 就農支援	○将来の就農ビジョンが明確でない ○農業の厳しさを十分認識せず、投資事業に農業次世代人材投資事業に申請する学生がいる	○就農率 60%	○コース別による就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化（経営計画の策定、農業機械操作、ハウス張替、土づくり） ○農業次世代人材投資事業（準備型）の活用支援 ○J A 高知市青壮年部との意見交換会（9月、学生28名、青壮年等8名） ○就農後のフォローアップ調査対象（27～31年度卒業生）	○就農率 合計13名 41% (30年度48%、29年度50%) 親元就農 6名 雇用就農 7名 ○1年就農コース専攻14名 ○人材投資事業(準備型)利用<1年1名、2年2名> ○定着率（H27卒～R1卒） 親元就農：103%（1名増） 雇用就農：97%（1名減） 就農合計：100%	C	・農村における人との関わり方、組織の役割を認識してもらい、地域に根ざした地域の担い手となる事の大切さを指導していただきたいです。	C	○農林課、農業委員会、地域担い手協議会と連携 ・南国市農業委員会 ・佐川担い手協議会他 ・安芸市 ・高知市 ・四万十町担い手協議会 ○農業振興センターと連携（データの共有）

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
4 教職員の スキルアップ 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要 ○若者の心理を踏まえた教育指導技術の向上が必要	○各種研修への参加	○教官研修の受講 ○産地の栽培技術等の動向調査	○参加状況 新任者研修 3名 教育研修会 1名 西日本担当者会(野菜、果樹、畜産) 3名 中国四国教務担当者会 1名 大阪流通研修 6名 試験研究及び産地視察 11回 環境制御成果発表会 1名 (再掲) 高校教諭との意見交換 10名	A	・”全国青年農業者育成研究会”では、他県の役に立つ情報が聞けます。	B	○産地の現状把握 ○多様な情報の収集・把握